



令和元年7月30日、国の文化審議会世界遺産部会が開催され、本市の小牧野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、世界文化遺産への推薦候補に選定されました。このことを祝して、8月11日に開催した「こまきのヴィレッジまつり」では、荒川小学校・荒川中学校の児童・生徒、縄文の学び舎・小牧野館館長や地元の皆さんと一緒にくす玉を開披するとともに、2年後の世界遺産登録に向けて、全員で「ガンバロー！」と記念撮影を行いました。

12月20日には、推薦書のユネスコへの提出が閣議了解され、世界遺産への推薦が正式に決定し、縄文の学び舎・小牧野館では、この日お披露目となった縄文人をかたどったネブタに「祝 世界遺産登録推薦決定」の文字を書き込むとともに、万歳三唱が行われ、館内は喜びに包まれました。

その後、令和2年1月16日には、日本政府からユネスコに推薦書が提出されました。

今後は、ユネスコの諮問機関による現地審査（令和2年予定）を経て、世界遺産委員会における世界遺産の登録審査・決定（令和3年予定）を目指すこととなります。



12月20日 縄文ネブタに「祝 世界遺産登録推薦決定」を書き込む様子

「国指定史跡 高屋敷館遺跡」がオープンしました！

平成13年度（2001）から保存・整備を進めてきた「国指定史跡 高屋敷館遺跡」が、令和元年（2019）9月21日にオープンしました。

高屋敷館遺跡は、平安時代の環壕集落遺跡で、指定面積約30,000㎡（南北約500m、東西約90m）もの広さがあります。平成6～8年度（1994～1996）の発掘調査の結果、極めて重要な遺跡であることがわかったため、国道7号浪岡バイパスの計画路線を西側に迂回して、遺跡を保存することになり、平成13年に国指定史跡に指定されました。

史跡整備では、この遺跡の最盛期である11世紀代を対象に、竪穴住居跡・工房跡12棟については平面表示、柵列・土塁・壕跡については復元整備を実施しました。



国指定史跡 高屋敷館遺跡 環壕集落出入口付近

「青森市中世の館」の展示コーナーをリニューアルオープン！

中世の館は、浪岡城跡を中心とした歴史展示室と文化ホールを備えた複合施設として、平成4年（1992）8月に供用を開始しましたが、開館以来はじめて、第1展示室の展示コーナーを大きく見直し、令和2年（2020）3月20日にリニューアルオープンしました。

今回のリニューアルでは、「国史跡 高屋敷館遺跡」及び「川原館遺跡」の出土品やパネルを中心に展示しました。

「国史跡 高屋敷館遺跡」のコーナーでは、平安時代の環壕集落である高屋敷館遺跡の発掘調査で見つかった土器、金属製品、木製品、土製品等を展示しています。

また、浪岡城主 北畠氏一族の居館「川原御所」の推定地とされる「川原館遺跡」のコーナーでは、出土した陶磁器、木製品等を展示しています。

このほか、平安時代から始まった遊びとされる貝合わせや高屋敷館遺跡の出土土器を模したパズルのほか、遺物の実測用具に触れられるコーナーも設置しました。



リニューアルした展示コーナー



遺跡を大切に



青森市では、現在までに400カ所以上の遺跡が見つかっています。遺跡は、地下に埋もれているため、遺跡として登録されていない場所でも、新たに発見されることがあります。

地面を掘削するような開発工事等を行う場合には、計画の早い段階で開発予定地における遺跡の有無について照会してください。



新城山田 (4) 遺跡の発掘調査風景 (令和元年度)

【問合せ】 青森市教育委員会事務局 文化財課

青森市新町1丁目3番7号 駅前庁舎3階 ☎ 017-718-1392 FAX 017-718-1394